

環境との共生をはかる先進的な取り組みとして



三菱地所の次世代型の取り組み

当社は、「快適な生活空間の創造」を社会的使命とする総合デベロッパーとして、環境への配慮を経営の重点課題のひとつとして取り組んできました。

例えば、省エネルギー・省資源・大気汚染防止を重要なコンセプトとして地域冷暖房事業に全国各地で携わっているをはじめ、ビル賃貸事業ではビルの建築及びリニューアル、運営管理に関しての省資源・環境低負荷型商品の採用、ビル内で発生する各種ゴミの排出量の抑制・分別回収の徹底など、その範囲はテクノロジーの最先端分野から身近にできる環境への取り組みまで多岐にわたっています。また、自然環境保全と再生に配慮した開発計画や、大地震など自然災害への対策、高齢者・身体障害者に配慮した街づくりなど、安全で快適な街づくりを行ってきました。

環境に配慮したこうした取り組みは、人間環境を第一に考えた街づくりを行っている住宅開発事業や設計監理事業においても、同様に重要なテーマのひとつとして実践されています。

ここでは、これまでに行ってきた次世代型の取り組みを紹介します。



環境保全を実践していくための設計ガイドラインとなる当社の「環境共生マニュアル」

「環境・エネルギー優良建築物マーク」を取得

当社では、1998年に策定した「環境自主行動計画」のなかで、ビル事業本部における環境自主行動計画を定め、省エネルギー・省資源、廃棄物の減量化、資源リサイクルを進めてきましたが、1999年5月7日、(財)住宅・建築省エネルギー機構(現(財)建築環境・省エネルギー機構)が制定する「環境・エネルギー優良建築物マーク」の第1号交付を、当社が運営管理を行っている横浜ランドマークタワーが受けました。これは建築物における環境負荷の低減を推進することを目的として、一定水準以上の省エネルギー性能を有する建築物だけにその表示が認められるものです。

横浜ランドマークタワーに続いて、1999年7月19日には当社が千代田区丸の内建設中の(仮称)丸ノ内ビルディングが計画中の物件としては初めてマークの交付を取得。当社ビルの高い省エネルギー性能が認められました。

環境・エネルギー優良建築物マーク

地球(earth) 環境(ecology) エネルギー(energy)の頭文字である e をスパイラル状に運動する図形としてデザイン化。「やさしさ」「やわらかさ」をイメージした建物との組み合わせで省エネルギー建築を表現している。

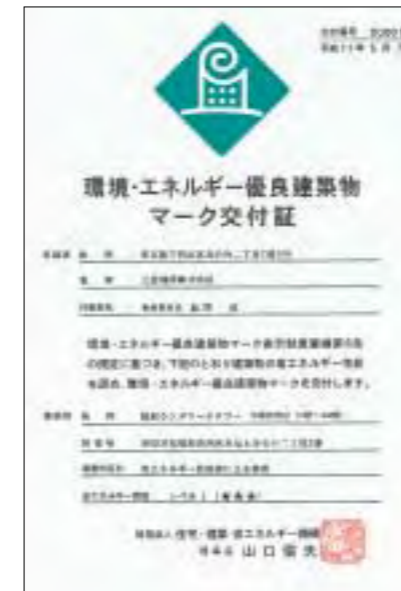


横浜ランドマークタワー

横浜ランドマークタワーでは、外装にペアガラスなどを採用して建物外皮の性能の向上をはかるとともに、空調システムによる省エネルギーを進めるなどして、一般的な同規模の建物のエネルギー使用量(日本ビルエネルギー総合管理技術協会のデータ)より約2割程度の省エネルギーを実現しています。

[具体的な省エネルギー対策]

- 効率よい運転制御及びビルマネジメントシステムの利用によるエネルギー消費量の検証を行っています。
- ゾーン単位の単独運転を可能とする空調システムを構成しています。
- 空調機、冷温水ポンプ類の台数制御ならびにインバーター制御を併用しています。
- 建物外皮性能の向上
- 建物四周の庇による日射よけ効果
- 窓ガラスに二重ガラス(ペアガラス)を採用
- 隅角部の窓ガラスに高性能熱線反射ガラスを採用
- 基準階照明のキーボックス運動による自動消灯ほか



(仮称)丸ノ内ビルディング

丸ビル計画では、外気を積極的に取り入れてエネルギーを削減する空調システムや夜間電力の有効活用をはかる氷蓄熱システムを導入することなどにより、一般的設計基準のビルに比べ、約3割の省エネルギーを実現します。

[具体的な省エネルギー対策]

- 無駄な空調を抑制するために、外気の導入能力を通常の2.5倍に拡大し、春・秋など季節の良いときは積極的に外気の導入をはかっています。
- 115㎡ごとのきめ細かな調整が可能な空調システムを採用することで、時間外・休日運転などの部分負荷に柔軟に対応し、省エネルギーをはかっています。
- コージェネレーション設備を採用し、ガスタービンの動力で電気をつくる際の排熱も温熱源として利用しています。
- 外光の状況により自動的に照度を調整する自動調光設備を導入します。



環境との共生をはかる先進的な取り組みとして

三菱地所の次世代型の提案

当社の設計監理事業では、資源エネルギーの節約、循環型経済社会への寄与、環境との共生、安全で快適な街づくりの推進を念頭において地球環境への負荷を極力低減させるため次のような提案も行っています。ここではその具体例として、兜町日興ビルの太陽光発電システム、日石三菱虎ノ門ビルの省エネルギーシステム、OAP(大阪アメニティパーク)タワーズの未利用エネルギーの活用の3つの事例を紹介します。

地域冷暖房システムの導入

河川水などの未利用エネルギー・コジェネレーション・蓄熱槽の活用によりエネルギーの有効活用をはかっています。

建物への負荷低減と自然光利用

外壁・窓廻りの空調負荷を低減させる断熱性の高いガラスやエアフローウインドウ、あるいは自動調光ブラインド等の採用をはかっています。

省資源・リサイクル

大規模建築では、排水処理による中水道設備の導入や雨水再利用による節水をはかっています。

有害物質の低減

オゾン層を破壊するフロン・ハロンについては、より影響の少ない代替システムの採用を推進しています。

建物の長寿命化

建物の耐用年数を伸ばす為には耐震・構造性能の向上が求められ積極的に取り組んでいます。更に、安全・省エネ・フレキシビリティ(多機能対応)や、将来の設備更新が可能な建物をめざしています。また、こうした環境への対応を実践していくためのガイドラインを「環境共生マニュアル」として独自に作成し、環境への配慮の度合いをチェックするとともに、一部の項目は最終的に定量化して、影響の度合いを定量的に把握するよう努めています。

兜町日興ビルの太陽光発電システム

同ビルでは建築主の環境配慮に関する強い意向を反映して、クリーンエネルギーを提供する太陽光発電システムを導入しました。

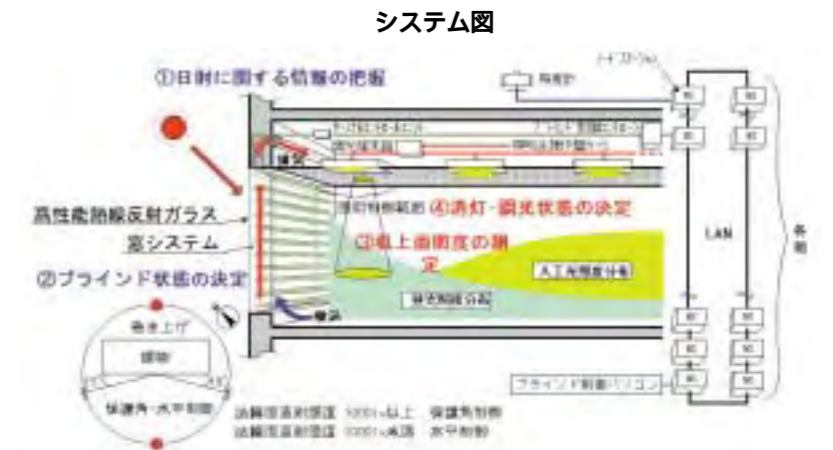
システム概要

屋上に太陽光発電パネル約100㎡を設置して、晴天時約10kwの電力を発電。ビルの電源と系統連携して送電しています。太陽光発電による電力は、災害停電時等には発電機と連携して、1階営業室の照明や通信機器の電源として利用できるようにしています。



日石三菱虎ノ門ビルの省エネルギーシステム

同ビルでは、エアフローウインドウ・ブラインド制御・窓際調光制御などの快適性と省エネルギーを両立する窓システムを導入しています。本物件については竣工後、約1年にわたる実測調査を行い、システムが適切に作動し、当初の目的である快適性と省エネルギーの両立を確認しました。またこのシステムの導入で、エアロウインドウでの空調負荷は単板ガラスの場合の3分1から4分の1に減少。窓際照明制御では通常点灯時の約3割の省エネがはかられています。



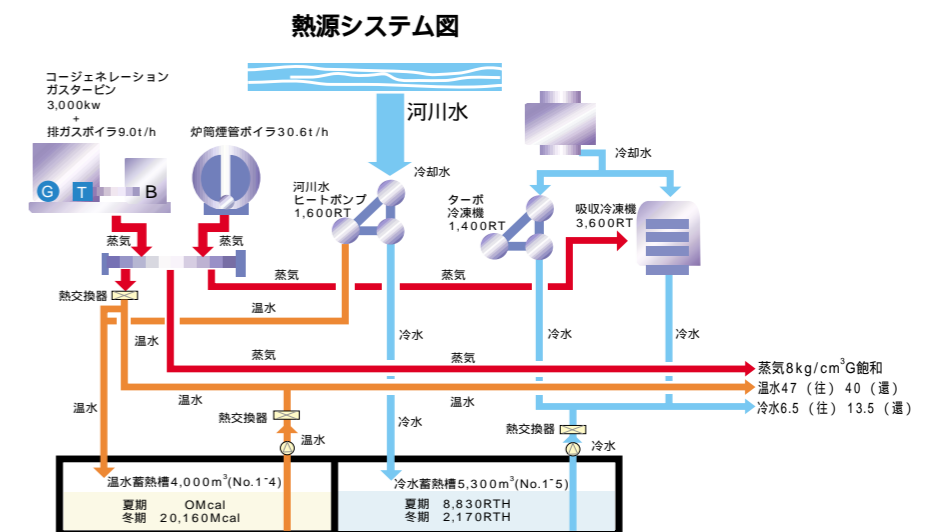
OAPタワーズの未利用エネルギーの活用

OAPタワーズは、大阪市の再開発事業として、旧三菱金属(現三菱マテリアル)の大阪製錬所跡地約6.7haを利用して1996年1月にオープンしました。当社では、河川水を利用した地域冷暖房システムの導入と水資源の有効活用により、省エネルギーを促進しています。

[具体的な取り組み]

OAPタワーズでは、地域冷暖房の熱源に大川(旧淀川)の河川水を利用する未利用エネルギー活用システムを採用し、供給エネルギーの約20%を河川水に依存し、投入一次エネルギー量で約12%の省エネ効果がみられました。このことから通産省の未利用エネルギー活用地域冷暖房システム補助金制度の適用を受けました。

このシステムは、ビル側に設置したコジェネレーションシステムとともに順調に運転を行っており、運転実績調査で省エネルギー性の確認と、冷温排熱による河川への影響(環境負荷)が事前の予備調査通り、極めて少ないことが確認できています。そのほか水資源を有効に活用するため、雑排水、雨水を中水プラントで再生し、すべてのトイレ洗浄水及び植栽の灌水として活用。通年で約10万m³の水を節水しています。



Story 1



解体前の丸ノ内ビルディング



(仮称)丸ノ内ビルディング竣工予想図

丸ビル解体と再利用計画

約4,100もの企業・団体が集まり、世界を代表するビジネスエリアをなす「丸の内」。その再開発事業の一環として当社は「丸ビル建替計画」に着手した。

2002年竣工をめざす丸ビルは国際化や情報化という時代の要請を踏まえた魅力ある「都心」の新しい顔となる。80年の歴史を蓄積する旧丸ビルの解体も「地球環境の保全」という時代の要請にそった方法で行われなければならない。それは丸ビル建替事業の基本方針の一つであった。

解体にあたっては広範な視点と慎重な準備を経て取り組んだ。まず、歴史を継承するという視点から、技術調査は関東大震災の被害状況を確認・検証しながらの作業計画を必要とした。また、環境共生・リサイクルに正面から取り組

むこと、工事実施は周辺環境への負荷軽減に心がけることを施工計画の基本とした。

このため調査は、学識経験者の指導・協力を得て文献調査と実態調査・実験を計画的に進めた。解体は当社主導で工事に会社に協力を求め、リサイクル率を極力高めるため解体物の分別の徹底を第一義として施工手順を定め、コンクリートや鉄筋・鉄骨は再生工場やスクラップ工場で100%のリサイクル率を達成するなど、徹底して廃棄物を減らす努力を行った。周辺環境への影響を考え騒音・振動や粉塵の発生を最小化するための工法検討にも取り組んだ。また、丸ビルを支えた5,443本の基礎杭(北米産、長さ14m)の活用と再生にも取り組み、これは大学等の研究・教育資料や花壇の木枠やベ

ンチ、幼児教育用積木、チップ化しての紙製品への利用など、さまざまな人々の協力で再生をはかることができた。

こうした努力は十分とは言えないかもしれない。しかし、実施前の計画的な議論や、さまざまな人々の理解と協力があって初めてこの工事が可能となったことを我々は忘れない。

新しい丸ビルは「環境共生型の建築を目指す」という当社の基本方針にそって、建物の長寿命化や省エネルギー対策による生涯CO₂排出量の削減、省資源と資源の再循環、周辺環境への配慮など次世代型の建築を目指している。

新旧をつらぬく環境保全の試み——我々の挑戦は続く。

ビル賃貸事業へのISO14001導入

1998年の夏、賃貸ビルの運営管理業務に関わる社員の中から、10人が選抜され、ISO14001の取得に向けた作業を開始した。まずは賃貸ビルの運営管理業務全般を通じて、一体どのような仕事の流れになっているのか、業務手順とその内容の洗い出しを細かに行った。日常当たり前のように行っていた業務が、いざ「環境」という新しい視点からするとどのようなところで関連が出てくるものなのか、戸惑いながらも取りこぼさないよう配慮した。事業活動を通じて環境に関連する点、即ちISO14001規格の上でいう環境側面を、物質等を投入する「インプット」の視点と、製品等が生み出されると同時に種々の物質が排出・放散される「アウトプット」

の両面から把握したところ、200あまりの側面があることがわかった。

この次のステップとして、多数の環境側面の中から当社が重点的に取り組むべきものを選別する作業があり、これは投入物質の使用量の多寡や、排出物質の有害性・排出量、事故災害が起きた場合の危険度など複数の視点から検証し絞り込んだ。

具体的な取り組みの内容は、省資源を目的とした適切な設備運転監視や工事手法の採用、廃棄物のリサイクル促進、フロン使用設備の漏出防止対策などとなった。賃貸ビルの場合は、工場などでの生産活動とは異なり、使用される電力・水や、廃棄物の発生なども管理者の立場ではコントロールする

にも限界がある。このため、入居して頂いているお客様にも様々なご協力を依頼することとなった。

これらの業務を通じて始終感じていたことは、「人が生活していくために、あるいは企業が活動していくためには、環境との相互関係の中で何らかの影響を与えずにはられない」という事実であり、これらの営みを、いかに自然環境への負荷を小さくしながら事業継続できるのかを、業務を通じて日常的に検討していかなければならない、という点であった。

端緒に着いたばかりの取り組みであるが、パフォーマンスを確認しながら成果をあげるべく工夫を凝らしていきたいと考えている。

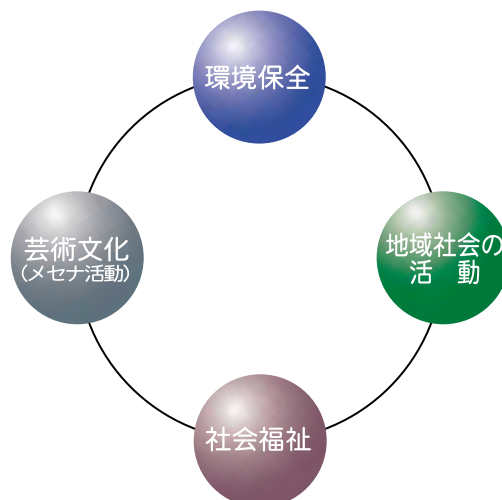


三菱地所の 社会貢献活動

フィランソロピー&メセナ

当社では地域社会との共生を大切にし、生活者の立場から心に触れる社会貢献を目指し、活動を重点4分野にわけ社会貢献活動を推進しています。

社会貢献活動 重点4分野



地域社会と対等・同等のパートナーシップを形成するという基本視点にたち、社員やその家族、そして地域の方々にも参加していただく自主プログラムを企画・運営するほかNPO・NGO支援、芸術文化支援等に加え社員のボランティア活動支援も行っています。

企画本部 社会環境推進室

1994年6月社会環境室が設置され、翌年社会環境部へ名称変更後、2000年4月会社組織変更により企画本部 社会環境推進室となる。当室は三菱地所の地球環境保全に関する検討と提言業務に加え社会貢献(フィランソロピーおよびメセナ)事業の企画・実施を分掌している。

ここでは1. 地域社会の活動 2. 社会福祉 3. 芸術文化(メセナ活動)と社員のボランティア活動支援のいくつかをご紹介します。

活動事例の紹介

1. 地域社会の活動

地域との共生を大切にするため、企業として・社員としてできることを積極的に行っています。

オーケストリオ・チューリッヒ演奏会へのご招待
三菱地所のいきいきそば配食サービス
ミッキーマウスに『愛』に行くツアーへのご招待
特別養護老人ホーム利用者との散策会
はあとフェスタへの参加



「オーケストリオ・チューリッヒ演奏会」へのご招待
平成8年より毎年演奏会を主要事業地域で開催し、普段コンサート会場へ出かける機会の少ない高齢者や障害をお持ちの方々及び地域の方々をご招待して、良質なクラシック音楽をお楽しみ頂いています。企画会社や音楽事務所などを一切通さず、日程から演奏曲調整、会場手配、当日の運営まですべてを当社で企画・実施しています。



ちよだボランティアセンターとの共催で区内のボランティア活動を支援することを目的に千代田区内に主要事業地がある企業15社が集った「ちよだボランティア企業連絡会」では、千代田区一番町特別養護老人ホームの方々や散策会を実施したり、障害者の方と東京ディズニーランドで一日楽しむ企画、千代田区内で行われるボランティアフェスティバルへの参加など、様々なイベントを通して地域交流を深めています。



三菱地所のいきいきそば配食サービス特別養護老人ホーム入所者の慰労と地域交流を目的として「三菱地所のいきいきそば配食サービス」を実施しています。蕎麦職人の指導のもと、社員ボランティアや施設周辺の地域の方々、施設で働いている方々が、お年寄りの目の前で蕎麦打ちを行い、昼食に職人の打ちたての蕎麦を食べていただきました。ボランティア参加者が楽しみながら地域に貢献できるイベントになっています。

2. 社会福祉

経済活動に留まらず良き企業市民として、社会の課題にも積極的に取り組んでいます。

日韓視覚障害者交流の輪
東京ミレナリオへのご招待
世界の子供たち チャリティパネル展
国際交流フレンドシップ
観劇会の開催
海外研修生・留学生の見学会受入れ
カレンダー・手帳で社会貢献
使用済みテレカ・切手をNGOへ
書き損じハガキで奨学金
NPOフェスタ開催
グランマルシェでの販売



日韓視覚障害者交流の輪
日本と韓国の視覚障害者と企業人ボランティアサポーターの交流を目的として、毎年交互に相手国を訪問しています。平成11年度は筑波大付属盲学校の皆さんとともに韓国へ参りました。社員ボランティアも参加しています。

世界の子供たち チャリティパネル展
当社が保有している横浜ランドマークタワー69階の日本一高い展望フロア「スカイガーデン」では、毎年6月2日の横浜開港記念日に特別営業(入場料割引)を実施しています。この開港記念に合わせて、NPO団体の活動を紹介する写真パネル展を開催し、入場料収入の一部を参加NPOに寄付しています。

出展団体
(財)日本ユニセフ協会
(財)オイスカ
(社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



「東京ミレナリオ」へのご招待
丸の内で開催された「東京ミレナリオ」に、養護学校や児童養護施設のこども達など約130名を招待し、丸の内カフェにてゲーム大会の後、サンタクロースからプレゼントを差し上げました。



国際交流フレンドシップ
海外で活躍中の日本語教師の方々毎年研修生として来日し、日本の社会人と交流を行っています。日本語の勉強だけではなく、お互いの国を理解するというを目的に国際交流をおこなっています。

活動事例の紹介



観劇会の開催

お年寄りや障害のある方、養護施設の子も達を観劇会等に招待し、企画から会場準備まで各企業社員が行っています。



海外研修生・留学生「横浜みなとみらい21見学会」

海外からの多くの研修生や留学生の「横浜ランドマークタワー」の見学会を受け入れています。25階にあるビジネスサポートフロアにて建築構造などの説明の後、スカイガーデンにご案内しています。



カレンダー・手帳で社会貢献

年末に他社から寄贈されるカレンダーの一部を、平成7年度より国内の福祉施設やNGOを通じて海外へ寄贈しています。アフリカでは子どもたちがカレンダーを使って数字を学んだり、カレンダーの裏をノート代わりに使っています。



使用済みテレカ・切手をNGOへ

当社所有のビル内にテレカと切手の回収箱を設け、社員だけでなく、ビルの利用者にも協力を呼びかけて活動の輪を広げています。小さな積み重ねが途上国の方々の生活向上や地球の緑を守るために役立っています。

書き損じハガキで奨学金

ガルニー奨学金制度は、タイで一番貧しいといわれている東北地方の子供の中学進学を支援する国際教育里親支援制度です。社会環境推進室が事務局となり、年間を通じて書き損じハガキを受け付け、国際協力NPOである日本国際交流センターへお送りし、奨学金としてタイの子供達の教育に役立てられています。

NPOフェスタの開催

三菱社会貢献連絡会の参加企業から提供された物品を低価格で、企業社員とNPO関係者が共同で販売し、売上をNPO団体へ寄付するバザーを開催しています。



グランマルシェでの販売

三菱28社をメンバーとする社会貢献の情報交流・共同イベントを推進する協力組織「三菱社会貢献連絡会」では、年2回丸の内仲通りで開催するワゴンセール「グランマルシェ」で福祉作業所やNPOの商品を、企業の社員ボランティアが売り子となって販売し、支援をしています。

3. 芸術文化(メセナ活動)

「心の豊かさ」を高めるため、芸術文化活動に支援をしています。

NHK交響楽団・日本フィルハーモニー

交響楽団への特別協賛

ギャラリー・ホールの運営

・タワーギャラリー

(横浜ランドマークタワー)

・横浜ランドマークホール

・三菱地所アルティアム

(福岡・天神イムズ)

ストリートギャラリー

(丸の内・仙台・金沢・名古屋・広島)

デフ・パペットシアター・ひとみの

後援

室内楽オーケストリオ・チューリッヒ

の国内演奏会開催支援



NHK交響楽団・日本フィルハーモニー交響楽団への特別協賛



横浜ランドマークホール運営(横浜夢座公演「蒲田行進曲」)



三菱地所アルティアム運営(福岡・イムズ)(クリスチャン・ジャガール展「オブジェとデッサン」)



デフパペットシアターひとみの後援
ろう者の方を劇団員とする人形劇団「デフパペットシアターひとみ」を支援しています。

社員のボランティア活動支援

当社では社員向けのボランティア活動支援を充実させています。

ボランティア登録制度「社会人倶楽部」

ボランティア活動希望者の登録制度「社会人倶楽部」では、登録者にボランティア情報を直接メールで定期発信し、ボランティア支援・啓発を行っています。



ボランティア保険負担制度

ボランティア活動を行う際に事前に連絡があった場合、社会環境推進室が保険加入の手続きを行い、会社にて保険加入料を負担しています。(平成7年度より実施)

ボランティア情報の提供

「応援団通信」

各地域のボランティア活動やNPOの情報を提供する「応援団通信」を、社内ネットを使って定期配信し、社員一人一人の社会貢献活動を応援しています。

「Volunteer & Eco information corner」

本社ビル2Fにある談話室に、社会貢献・環境保全情報コーナー『Volunteer & Ecoinformation corner』を設置。地域別ボランティア情報やNPO発行誌、NPO支援の通販カタログ、環境関係パンフなどを展示して、社員の活動を応援しています。



買って楽しいボランティア

ユニセフやWWFなどNGO・NPOの支援になる通信販売を推奨する企画「買って楽しいボランティア」では、カタログ発行の春・秋に合わせ年2回、社会環境推進室で一括注文・販売を行なっています。会社で送料や振込み手数料を負担し、販売を促進しています。その他、気軽に買う事でボランティアにつながる、ユニセフ等のカード等を社内販売しています。

音訳ボランティアサークル事務局

目の不自由な方々に多くの情報を楽しんでいただくため、本や雑誌などの活字情報を音に訳す、音訳ボランティアサークルを結成し活動しています。月2回、元アナウンサーの先生による指導を受け、それぞれがお昼休みや自宅で練習をし、テープの制作を行っています。

社員啓発

当社が行っている社会貢献活動を報告し、社会貢献理念の理解やボランティア啓発につながることを目的として、年に1回発行の「三菱地所のフィランスロビー」、隔月で「Mec-ing 通信」を発行し、社員全員に配布しています。

「三菱地所のフィランスロビー」

当社が行っている社会貢献活動全般の広報紙。社会貢献活動を環境保全・地域社会の活動・芸術文化支援・社会福祉の4分野に分け、それぞれの活動を紹介しています。



「Mec-ing 通信」

企業・地域・社員の共生をめざす活動報告紙。隔月発行で、2ヶ月分の社会貢献と環境保全の活動内容を社員が参加したものを中心に報告しています。



ボランティア講座の開催

ボランティア活動を始めるきっかけづくりとして、各種のボランティア講座を実施しています。講演会だけでなく体験会も織り交ぜて、一人一人に実感してもらう講座を自主開催のほか、他社との共同開催でも行っています。



盲導犬アイサポート講座

環境報告書に対する第三者意見書




環境報告書に対する第三者意見

2000年12月20日

三菱地所株式会社
取締役社長 福澤 武 殿

特定非営利活動法人日本NPOセンター

事務局長

山岡 義典 

私は、貴社の責任において作成された「三菱地所環境報告書 2000」の記載内容について精査し、第三者の立場から以下の意見を表明します。

1. 本報告書の記載内容につきましては、私の専門的知見および提供された情報等から考え、建築・都市計画・不動産分野の事業における環境の質の向上に向けての取り組みを、可能な範囲で適切かつ十分に記述していると判断します。
2. ただし、この分野の事業におきましては、本来事業そのものが環境の質の向上を図ることを目的とするものであり、環境の質の向上に関わるコストを本来事業のコストとは別に算定する方法に関しては、十分な理論的根拠が確立されておりません。また一般の製造業における環境コスト算出の方法をそのまま適用することも、多くの課題があります。その点で、当報告書記載の環境会計につきましては、そのような制約のもとにおける現時点での一つの試算にすぎないものと考えます。
3. また研究開発コストに関しては、本来事業に関わるコストと環境の質の向上に関わるコストを峻別することは、さらに困難であり、その点で今回の環境会計の対象外としたことは、やむを得ないものと考えます。
4. 当該分野の事業における環境の質の向上のためには、しばしば、工事期間の延長や土地・床の空間利用効率の低下という、金銭としては直接表現されない負担が生じます。これらの期間コストや空間コストを、金銭に換算して環境会計に取り込むことなども、今後の重要な課題になると考えます。
5. 本報告書は、以上の制約のもとにおける当該業界での貴重な第一歩と評価します。今後、より精緻な理論の構築と現場の実情に即した方法論の積み重ねによって、さらに意義深い環境報告書が作成されますことを念願します。

特定非営利活動法人 日本NPOセンター / Japan NPO Center

会社概要

商号 三菱地所株式会社
MITSUBISHI ESTATE CO., LTD.
設立 昭和12年5月7日
資本金 86,534,186,632円(平成12年3月31日現在)
本店 〒100-8330
東京都千代田区丸の内2-7-3東京ビル
TEL (03) 3287-5100(代表)
営業種目 ビルディングの経営
住宅、マンション等の建設、分譲
住宅用地、工業用地等の造成、分譲
観光、娯楽施設の管理、運営
ホテル、レストランの経営
索道事業の経営
建築土木の設計監理、請負
港湾、河川等の浚渫、埋立
不動産の売買、仲介、鑑定
不動産特定共同事業法に基づく事業
従業員数 1,841名(平成12年3月31日現在)

皆様のご意見・ご感想をお寄せください

三菱地所では次代の子どもたちにも誇れる企業をめざし環境保全活動に取り組んでいます。この「環境報告書2000」は、その私たちの取り組みを広く知っていただくために作成したものであり、不十分な点はこれから一步一步着実に改善していきたいと考えております。この環境報告書をお読みいただいたご意見・ご感想をお寄せいただければ、これからの参考とさせていただきます。お手数ですが、弊社企画本部社会環境推進室までFAXにてご連絡いただければ幸いです。

お問い合わせ先

三菱地所株式会社 企画本部 社会環境推進室
FAX (03)3212-2362

ホームページ：<http://www.mec.co.jp>